

代表：島 042-327-9330 事務局：深澤 042-341-7524 e-mail: kodaira_kankyo@jcom.zaq.ne.jp

* 「未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話」 *

マイクロプラスチックの4分の1は人工芝?!

.....*.....*.....

●プラスチックごみゼロ宣言●

来年1月11日(土) 14:00~16:30 に小平中央公民館学習室4にて、表題の学習会を開催し、大阪商業大学公共経済学部の原田禎夫准教授に、深刻なマイクロプラスチック問題の現状についてお聞きします。

原田准教授が住む京都府亀岡市は、昨年12月に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発表し、来年プラスチック製レジ袋を禁止する予定です。市の宣言を受け、市内の店舗もプラ製レジ袋を紙袋に変えたり、仕出しの弁当箱を紙製に変えたりしています。

昨年夏に由比ヶ浜に打ち上げられたシロナガスクジラの赤ちゃんの胃からプラスチックが発見されたことをきっかけに、神奈川県は昨年9月、鎌倉市は昨年10月に、プラごみゼロ宣言を発表しました。

●マイクロプラスチックの4分の1が人工芝?●

昨年10月、環境ベンチャー企業ピリカが、首都圏と大阪府内の11河川の水に浮かぶ5mm以下のマイクロプラスチックを採取し分析した結果、全ての河川からマイクロプラスチックが検出され、その4分の1が人工芝の破片だったそうです。原田准教授も、大阪府淀川河川敷の砂を40cm×40cm×5cmの枠で採取し分析した結果、写真(次ページ)のように人工芝の破片を検出したそうです。

ピリカの調査結果を受け、国会では、昨年秋の第197回臨時会で、立憲民主党の初鹿明博衆議院議員が「河川敷のグラウンドに人工芝を敷くことを禁止すべきではないか」と質問し、「環境省が実態把握のための調査等の実施を検討しており、今後の取り組みは、その結果を踏まえ、必要に応じて検討する。」との答弁を得ています。

●小川西グラウンドを人工芝に?!●

そんななか、小平市は、小川西グラウンドの人

目次

未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話.....	1. 2
公民館などの有料化について/問題あり! 公民館の有料化.....	3
コラム「環境フェスで、脱プラグッズを販売」/編集後記.....	4

人工芝について、今年度 80 万円の予算をつけ、「検討資料の作成」をしています。小川西グラウンドは、現在は土ですが、雨が降ってもプレーしやすく、冬季の霜にも対応できる人工芝にしてほしいとの要望がサッカープレイヤーなどからあり、周辺住民からの砂埃の苦情にも対応できるとの理由で、人工芝化を検討しているようです。

●人工芝による健康被害は？●

しかし、人工芝には、マイクロプラスチックの原因になる以外にも、様々な問題点があります。

2014 年に米国で、人工芝の充填剤として使われるゴムチップが原因でサッカー選手が癌になった可能性が報じられました。ゴムチップが古くなると微小な粉塵となり、選手に吸い込まれたりして癌を誘発した可能性が指摘され、米国環境保護庁は 2016 年に人工芝用ゴムチップの安全性について調査を開始しました。

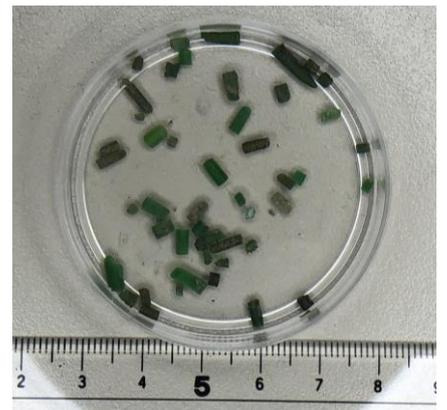
日本でも、今年 9 月に公表された国立医薬品食品衛生研究所による「人工芝グラウンド用ゴムチップの健康リスク評価に関する研究」では、人工芝グラウンドの大気中に 36 種の揮発性有機化合物を検出し、ゴムチップから検出されたゴム添加剤や多環芳香族炭化水素類など 74 種の溶出試験などを行いました。結果として、いずれも基準値以下で健康リスクは十分低いとしたものの、「米国では調査研究が終了しておらず、新たな知見が公表された場合には、…必要に応じて再検討することが望ましい」としています。

●「いつとき避難場所」にふさわしくない人工芝●

また、夏季の晴天時に、天然芝の表面温度は 40℃以上にならないが、人工芝の表面温度は 60～65℃まで上昇すると指摘した論文もあります。小川西グラウンドは、地震によって火災が発生し、危険と判断される場合に、輻射熱や煙を回避し、安全を確保する場としての「いつとき避難場所」に指定されています。人工芝は難燃性樹脂を使っても不燃ではなく、燃えたら有毒なガスを発生します。冬季に人工芝の上では、たき火で暖を取ることもできません。避難場所としての小川西グラウンドに、人工芝はふさわしくありません。

●人工芝より天然芝を！●

人工芝は、地面にアスファルト等を敷いた上に設置するので、雨水が地面に浸透しにくく、水害の危険も増します。Jリーグは天然芝を推奨しており、HPには、「生き物である芝生との触れ合いは、命の大切さ、環境への配慮を考えることにもつながります。さらに芝生は地域の人々の交流を活発にし、その絆を深める効果も秘めています。芝生の維持には多くの人々の協力が欠かせません。そのための活動を通して会話が生まれ、共通の目的への仲間意識も芽生えます。芝生はまさに、地域の交流のシンボルともなるでしょう。」と書かれています。12月議会での答弁によると、小川西グラウンドに人工芝を敷く費用は1億8000万円、維持費用は10年で200万円に対し、天然芝を敷くには2億円、維持費用は年間800万円だそうです。天然芝の方が維持管理費用がかかりますが、人工芝を10～20年で張り替えるとしたら、コスト面でも大差なさそうです。環境問題の原因となる人工芝よりも、天然芝を通して、地域の絆が生まれれば、とても素敵な事例になるはずです。(水口和恵)



公民館などの有料化について

小平市は、公民館や地域センター、図書館会議室などを有料化（受益者負担）する方向で、財政課が各公民館や地域センターにアンケートを置き、その回答を求めるとともに、「意見交換会」というものを、6回開催しました。市民の方は、この事をどのくらいご存知でしょうか？

アンケートも意見交換会も、最初に有料化ありきで、これまで、営利団体や政治団体以外は、ほぼ100%減免措置により無料で使えていたものが、今後、この減免措置を見直し、半額程度の利用料を取ろうというものです。そして、この減免措置をどのように見直すかの意見を出して欲しいというのです。

しかし、趣味の団体にしても、私たちのような会議を行う団体にしても、そこに属している方々は、それが生きがいとなっていたり、必要に迫られていたり、とても線引きできるものではないと思いますし、講演会などで学習する権利は、守られるべきものだと思います。公民館等を利用することにより、健康を維持したり、認知症を遅らせたりという効果も実際にあるのではないのでしょうか？

公民館については「社会教育法」に定められており、その目的は次のように書かれています。

公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

公民館が無料でなければいけないとは書かれていませんが、住民の使い勝手を考えれば、原則無償の現状を維持して欲しいと願います。小平市は、有料化する理由として、「公民館等を利用する人と利用しない人の不公平感を除くため」としていますが、本音は、多分これから先の人口減少による収入減を見越して、今のうちに取りれるところから取りたいと思っているのだと思います。実際に市長との対話では市長が、「1円でも良いから取りたい」と発言されたとのこと。しかし、財源を見直すのであれば、仲町公民館などの訳の分からない出費はどうなるのでしょうか？今後も、小川駅西口の再開発で建てられるタワーマンションの一部を買い取る計画や、小平駅北口の再開発など、市民から見れば、「本当に必要なの？」と疑問視せざるを得ない開発費などが予算化されようとしています。

この問題について、市民が学び意見交換をする場として「公民館等のこれからを考える会」が発足し、既に意見交換会を1回、下記の学習会を1回開催し、多くの市民が参加し始めています。みなさまも、良かったら、これに参加して、ご意見、お考えを発信しませんか？

お問い合わせは、メール：kokyosisetsukodaira@gmail.com まで。お電話の方は島にお電話下さっても構いません。（島）

学習会【問題あり！ 公民館の有料化】講師：大和田一紘さん

11月23日(土)夜 中央公民館

地方財政がご専門の大和田さんは「総務省が行政改革のトップランナー、つまり民営化を進めている自治体を基準として、それにならわない自治体の地方交付税を減らすという仕組みがあり、それで小平市は焦っているのではないかと話しました。しかし、生涯学習が唱えられている時にその現場である公民館の使用料の値上げなどという姑息な手段に訴えるのはおかしい、もっと財政全体を考えるべきで、例えば、各種団体への補助金は都内でも高い方なので見直すべきという提言が市に出されていると指摘されました。また「受益者負担」とは本来、土地整理などの公共事業により特に利益を受けるデベロッパーや農家に求められる経費の一部負担であって、「住民への負担転嫁とはもとよりその性格を異にするものである」と地方財政辞典にも書かれています。このまま有料化されれば、午後や夜、公民館や福祉会館の学習室等を借りると1000円以上、ホール等だと2000～3500円かかってしまいます。それでは活動を続けられない、という悲痛な声があくつもの団体から上がりました。ごみの有料化と違い、使用料有料化で公民館等の利用者が減っては元も子もないはずです！（深澤）

環境フェスで、脱プラグッズを販売

5月末のごみゼロフリマでは、「ペットボトルやトレイ、紙パックをどこに出していますか」という定番のシールアンケートを実施した私たちですが、9月7日の環境フェス（@中央公園）では初めて、「めげせ！ 脱プラ生活」と題して、自然素材のスポンジなどを販売しました。環境問題に取り組んできた私たちでさえ、洗剤なしで汚れが落ちるアクリルタワシを手編みして売ったこともあり、そうした化学繊維が海のプラスチックの大きな供給源になっているとは想像もできませんでした。こうなったら、何度も洗濯する衣類も含め、身の回りのものをなるべく自然素材に変えていくしかありません。今回販売したのは、へちまスポンジ（75、85円）、セルローススポンジ2個セット（190円）、セルロース・コットンフキン（540円）、ミツロウ（を塗った綿布の）ラップ大中小セット（1300～2000円）、竹歯ブラシ（190円）で、手頃なへちまなどはほとんど売り切れましたが、高いミツロウラップはほとんど売れませんでした。へちまも洗剤なしで油汚れが落ち、古くなれば堆肥になり、ラップは繰り返し洗って使って1年もつという優れたものです。ただし、こうしたものはほとんど店頭では見かけないので、ネットで購入しました。安いものを探すとほとんど中国製で、中にはミツロウがベタベタするものもありますが、使ううちになじんできます。ラップやフキンはなかなかカワイイ柄で、私は愛用しています。



上はフキン、下はラップの上にスポンジ2種

日々の生活からいきなり全てのプラスチック・化学繊維を追放することは難しいですが、ごみになりやすい使い捨て品を減らし、水に流れたり風に飛ばされて海にたどり着く可能性が高い、清掃用品、人工芝などは代替していく

努力をしなければと思います。多分、これからも環境の会のブースでは、便利なプラ製品に代わる自然素材のグッズを辛抱強く売っていくでしょう。どうぞ見かけたらのぞいてみて下さい！

（深澤）



日の出の森・支える会からの依頼で、「たまあじさいの会」に発足した絵本の会が制作した、ごみ問題を訴える『くうのなみだ』という絵本を、小平市内全域の幼稚園に寄贈させて頂きました。子ども達は手にとって読んでくれるのでしょうか？

2019年4月から9月までの小平市の収集ごみ量

<速報値>

前年同月間と比較すると、
 全体 約 2,903 トン 約 16.7% 減少
 燃やすごみ 約 1,297 トン 約 8.9% 減少
 燃やさないごみ 約 1,582 トン 約 70.9% 大幅減少！
 プラスチック製容器包装 約 511 トン 約 138.7% 増加！

小平・環境の会

年会費 会員(個人) 1000円
 賛助会員(個人・団体) 5000円
 郵便振替：口座番号 00150-3-514947
 加入者名 小平・環境の会

今回の環音の2つの記事は、公民館有料化について取り上げている。隣接市のことで大変なことだと思っていた。先日、筆者は東大和市議会のある会派のニュースを目にした。そこには、東大和市が、公民館、市民センターの有料化を検討しており、2020年3月末までに結論を出したい、とあった。筆者の住む自治体においても公民館の有料化が出ている。他人事であると思っていたことが、自分事になると、インパクトがある。(森田)

編集後記